

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16107006	人工環境の普及に伴う日本人の環境適応能の変化に関する研究	栢原 裕 (九州大学・大学院芸術工学研究院・教授)	A
<p>本研究は、現代人が一日の大半を過ごす人工環境が人類の健康や環境適応能に及ぼす影響を、生理人類学的に明らかにすることで快適に生活しうる人工環境の条件を探ることを目的とする。具体的な成果としては、温湿環境、酸素環境、照明環境、居室内人工環境等による影響についてきわめて多岐にわたり、また、複合環境による影響も検討している。これらの成果は、日常生活への波及効果も含めて、非常に大きなものであり、目的を概ね達成しているものと評価できる。その一方で、研究の多くは人工環境への生理・心理反応特性の分析・検討の段階にとどまり、「人類が環境適応能を残しつつ、快適に生活しうる人工環境の条件を明らかにする」という目標にはやや距離が残されているという印象がある。これはおそらく、個々の研究成果を全体的・総合的にまとめる作業に、今少し時間が必要であるためと考えられる。人間を取り巻く人工環境は非常に複雑であることは言うまでもなく、本研究の本来の目的から言えば、全体をまとめた総論的作業が必要である。しかし、その点についても、今後、順次成果が公表されていくことが期待できる。以上のことから、期待通りに研究が進展したものと判断した。</p>			